

交流の扉

VOL. 25
2015.3

発行:伊万里市国際交流協会

平成26(2014)年度 伊万里市内の国際交流の動き

4月

- 「日本語教室いまり」(4.4～毎月2回程度開催)
在住外国人と日本人ボランティア10名が参加
- 台湾台華窯 呂社長、台湾
国立博物館館長夫人一行
20名が来伊(4.22～23)

伊万里・有田の窯元を視察



- 多文化交流事業
「海辺と釣りを楽しもう!in黒川町」を開催(11.16)
市内在住外国人、市民等23人が参加
- 大連市外事弁公室アジア処より
姜処長一行が交流協議のため来伊
(11.27～28)
- 「国際交流の夕べ」開催。(いまり
SGG(善意通訳者の会)11.29)
在住外国人と市民等38名が参加。



交流協議と市内視察

5月

- 伊万里市国際交流協会総会(5.12)

6月

- 「初級韓国語教室」開講(全24回、6.5～11.20)
講師 南原高義さん(受講者16名)

7月

- 大連市友好交流伊万里市訪問団
18名が中国大連・上海を訪問
(7.9～12)

大連の交流会で歌を披露



8月

- 全国中国語スピーチコンテスト
佐賀県大会に伊万里より市民
2名が出場
(佐賀県日中友好協会、8.23)

中国語一般朗読の部の発表



9月

- 「国際交流ひろばin伊万里中学校」を開催(3年生12名、9.14)
講師 トレーシー・スイフトさん
(オーストラリア出身、波多津町在住)
原 インギットさん
(インドネシア出身、大川内町在住)

中学生が英語でインタビュー



11月

- 大連市公務研修生
李娜さんが来日(11.4、1年間)
市長の隣は李娜さん



12月

- 「日中友好餃子会」で李娜さんの来日を歓迎
(伊万里市日中友好協会12.20)
市内在住中国籍住民、市民等29名が参加
- ライオンズ冬季交換留学生1名がマレーシアより来日
(伊万里ライオンズクラブ、12.16～26)

1月

- 「国際交流ひろばin波多津東
小学校」を開催(全校生徒31名、1.23)
講師 ローランド・シュミットさん
(カナダ出身、佐賀市在住)
ジェップ・塩多さん
(ベトナム出身、唐津市在住)
李 娜さん(大連市公務研修生)



外国のゲームなどで交流

- 佐賀県伊万里港振興会が台湾
ポートセールスを実施(1.26～29)



- 大連市旅遊局観光視察団が
来伊(王舒岩副局長ら3名)
(1.27)

市民交流をめざし観光農園ほかを視察

2月

- JICA青年海外協力隊
田中章貴氏が2年間のブータン
派遣より帰国、市長を表敬(2.13)

ブータンより帰国しました



3月

- 「初級中国語教室」開講(昼・夜各24回、3.3～約半年間)
講師 大連市公務研修生 李娜さん(受講者25名)



国際協力の会MIS(ミズ)は、「アジア仏教徒協会」からの要請で1994年に設立。仏教徒協会は第2次世界大戦の戦没者慰霊法要や遺骨収集をアジアの各地で行っておられた。特にミャンマーは、大戦中19万人近い日本兵の尊い命が散った地であるが、多くの日本兵がミャンマーの人達によって命を助けられている。そのミャンマーはアジア地域で「乳幼児死亡率」が最も高い国であり、不衛生な水が原因という事で浄水機を贈ることとなった。

依頼を受けたMISの会では、浄水技術の専門家と共にミャンマー国内の水質調査を実施し、調査結果に基づき製作した浄水機1号機を1996年ミャンマー中央部のメティラ市内の寺院に設置した。このメティラはインパール作戦で多くの日本兵が亡くなられた地である。その後2002年までの6年間に2、3号機を同市内に設置し、現地の人々が現地の材料でのメンテナンスが可能となっている。

2008年5月にミャンマー南部をサイクロンが襲った際、

大津波により14万人もの人々が犠牲になった。現在、MISの会ではそのサイクロンで親、兄弟を失った25名の孤児たちを支援している。

戦後70年が経過し、大戦を知るミャンマー人も少なくなったが、年月が経っても大戦中日本兵を命がけで助けてくれた恩を忘れてはならない。「MISの会」は、大戦で亡くなられた日本兵に対する鎮魂の想いと、大戦中に日本人を救ってくれたミャンマーの人々に対するお礼の気持ち、そして世界の恒久平和を願って、今後もミャンマー支援を続けて行きます。

古賀 等 〈会員団体 NPO法人国際協力の会MIS 理事長〉



'99年浄水器2号機の設置



服の配布を待つ子供たち

伊万里に暮らして、また、19年ぶりにふるさとを訪ねて



私が育ったのは、フィリピンの首都マニラから車で約2時間、森に囲まれた田舎町です。どの家の庭にもたくさんのフルーツの木があり、ココナッツやグアバの実、バナナなどの果物が特産品です。カカオ豆は白い実の部分をおやつに食べて、種はクリスマス頃、母親が炒って甘いココアを作ってくれるのでとても楽しみでした。

私は7人兄弟の一番上で、高校生からマニラに移り住んだのですが、昨年10月、母の葬儀以来19年ぶりに帰ったマニラはとても騒がしい町でした。今では伊万里のような静かな町が好きなのだ実感しました。今回は初めてだった娘は、日本と違う派手なスキンシップに啞然としていましたが、実家の墓参りもして、すべてを素直に受け入れてくれたようでした。

娘は今流行りのハーフですが、全く信じてもらえないと言います。それは、言葉も習慣も、子育てさえわからなくて戸惑っていた私に代わって、姑がすべて日本式で育ててくれたからです。子供が小学校に上がると、授業参観や保護者会の役員も姑と二人三脚、姑あっての子育てでした。ずっと黒川に住んでいましたが、親戚や友達ははじめ、周囲の人に恵まれて、困った記憶がないのです。とても感謝しています。

20数年前、日本といえば大都会東京を思い浮かべていたので正直驚きましたが、山と海が重なる黒川の風景に魅了されました。今は、都合で黒川を離れましたが、携帯電話

には当時、家の窓から見た風景の写真があります。日本の文化で一番驚いたのは、年末の大掃除です。フィリピンでも掃除はしますが、徹底的に磨く日があるということに驚きました。それから、町民運動会です。生まれて初めて徒競走に出ましたが、フィリピンでは、走るの才能に恵まれた速い人だけです。

黒川の皆さん、そして、伊万里市の皆さん、私は、皆さんとのかかわりの中で、すっかり伊万里弁を話すフィリピン系伊万里人になりました。

これからもよろしく願いいたします。

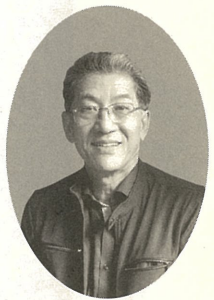
鶴田クリスティーナさん 〈フィリピン出身 脇田町〉



生まれ育った場所(娘と姪)



マニラの高層ビル街



2014年10月、長年の夢だった志気家の故郷への訪問が実現した。同年6月に他界した私の父保男は、1985年に伊万里を訪問していたが、当時、土地関連の手続きをしたとだけ父から聞いていた。

娘の成江を伴っての里帰りであったが、娘が働く国際連合の同僚である河野毅氏が同行してくれた。そして、滞在中、伊万里市国際交流室や武野逸郎氏など、伊万里の皆様のおかげがあったからこそ私の里帰りが成功した。

この訪問で、祖父の源蔵は1927年のブラジル出発まで、南波多尋常高等小学校の教員だったこと、父保男とその姉カズエがこの小学校を卒業したことが分かった。

特に、武野増見氏(逸郎氏の父君)から直接、教員時代の祖父、そして当時同校で増見氏と同級生だった叔父恒男の話をお聞きしたときの感動は忘れられない。

今回、幸いにも「トントントン祭り」期間中で、快くご自宅に招待して下さった前田省吾氏のお陰で、祭りのクライマックス「川落とし」を心行くまで観賞できた。



南波多小学校跡地を訪問

私達は、武野両氏に加え、緒方幸彦氏、山口敏一氏にも同行いただき、大川原にあった南波多小学校跡地を訪ね、私の家族が住んだ地域を見て回り、四角くきれいに整備された田んぼと美しい森に囲まれた故郷の景色を望んだ。

皆さんから私の家族の様子や父が1985年に訪問した当時の話しをお聞きするにつれ、私と伊万里との関係が強くなるのを感じたが、それは、単に私が日本の血でつながっているだけではなく、話を聞くうちに日本人としての自覚が益々強くなった結果だと思う。



伊万里市民図書館で書籍を調べる

伊万里市民図書館で読んだ資料によると、20世紀初頭に伊万里から出発した100名もの移民の中に志気源蔵の家族がいたようである。また、当時伊万里ほか各地の人々と共に神戸港から出発した日本人移民がブラジルへ到着したあと苦しい生活を強いられた様子も記されていた。

伊万里は有田とともに陶磁の里である。国際交流室川原氏に案内していただいた大川内山、そして田中博昭ご夫妻に案内していただいた有田の町並みは、この地域に世界が憧れる宝があることを教えてくれた。

今回、幸いにも「トントントン祭り」期間中で、快くご自宅に招待して下さった前田省吾氏のお陰で、祭りのクライマックス「川落とし」を心行くまで観賞できた。



前田氏宅でトントントン祭りの観賞

伊万里の皆さんの友情やおもてなしは、ブラジルの私の家族に語り継いでいくつもりである。この思い出深い里帰りを下さった伊万里の友人の皆様にご心より御礼申し上げたい。

ブラジル移民二世 志気 重男さん
〈ブラジル・ウベルランディア連邦大学名誉教授〉

伊万里市の海外移住状況

昭和4年(1929)発刊の「カナダ同朋発展鑑」によると、明治32年(1899)西松浦郡出身の蒲原伊左衛門がカナダに渡航し、スチーブストンで漁業に従事したとある。これが伊万里市域から海外移住をした最初であると記されている。

その後、佐賀県海外協会の調査統計によると明治、大正、昭和期の戦前戦後を通じて渡航した移住者は、県合計3884人、うち伊万里市域の移住者は佐賀市の288人に次ぐ、241人を数える。その移住渡航先の内訳をみるとブラジル200人をトップにパラグアイ15人、アメリカ10人、ペルー7人、ボリビア4人、カナダ3人、アルゼンチン2人となっている。特に戦後は昭和29年(1954)に海外移住が開始されて以来、県内移住者総数1111人のうち伊万里市からは、ブラジル123人、アルゼンチン8人、パラグアイの7人計138人で県内で最も移住者が多くなっている。これはブラジル移住の成功者、伊万里市南波多町大川原出身の前田常左衛門の影響が大きい。

〈伊万里市史現代編IIより抜粋〉

はじめまして。弊社は釣り具の(株)まるきん(小売店)と(株)キザクラ(釣り具の製造販売)の2つの会社を運営しております。地元や取引先からたくさんのご愛顧をいただき、来年創業50年を迎えますが、これから先100年企業をめざして、全社員で顧客さまのために頑張っております。

伊万里市国際交流協会に入会させていただいたのは2年前、弊社が中国人スタッフを雇用し始めた当初、彼らの心配を少なくし、地元で楽しくすごさせたいと考えたからです。様々な交流イベントに参加しながら、大変楽しんでいるようで、安心しました。普段の生活にもプラスになったようで、積極的に会社の業務もこなすようになり、大変助かりました。弊社にとっては、彼らの定着の意味でこの国際交流協会に助けられました。

昨年は多文化交流事業で釣り教室をお手伝いさせていただきました。釣りが初めての方へしっかりサポートしながら、伊万里の海のすばらしさ、さかな釣りの楽しさを体験していただき、参加された方々の笑顔がたくさん見ることが出来て、本当にうれしく思いました。

今後とも微力ではございますが、釣り文化を広め、国際化にも対応していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

草野 剛

〈会員団体 (株)まるきん 代表取締役〉



草野社長から釣りの説明



釣りの成果



釣りの成果より交流を楽しみました。(ボウズの人もあったようです)



☆伊万里市国際交流協会 (Imari international exchange society)

設立 平成元年(1989年)3月に市内の主な事業所・市民団体で設立

主な目的 伊万里市と世界の関係都市との間で、産業をはじめ教育・文化・スポーツ等の交流を進め、民間での活動を広く盛んにすること

活動 目的を実現するために、協会会員が協調しながら世界に開かれたまちづくり活動に取り組んでいます。

会員一覧(39団体)

※随時会員募集中

伊万里市	伊万里市観光協会	伊万里市地域婦人連絡協議会	NPO法人国際協力の会MIS
伊万里市議会	伊万里商工会議所	伊万里市文化連盟	西松浦通運株式会社
伊万里市教育委員会	伊万里市農業協同組合	伊万里市子ども会連合会	株式会社SUMCO九州事業所
いまりSGG(善意通訳者の会)	伊万里陶磁器工業協同組合	伊万里市スポーツ少年団	株式会社アイ・エス伊万里グランドホテル
伊万里市日中友好協会	佐賀玄海漁業協同組合波多津支所	伊万里市小中学校校長会	アイ・ケイ・ケイ株式会社
伊万里ライオンズクラブ	伊万里旅館組合	伊万里市体育協会	株式会社まるきん
伊万里ロータリークラブ	伊万里飲食業組合	一般社団法人伊万里・有田地区医師会	伊万里ケーブルテレビジョン株式会社
伊万里西ロータリークラブ	伊万里工業会	一般社団法人伊万里建設業協会	株式会社川原
国際ソロプチミスト伊万里	伊万里金融協会	株式会社名村造船所伊万里事業所	テラサキ伊万里株式会社
一般社団法人伊万里青年会議所	伊万里市区長会連合会	株式会社JAフーズさが	(順不同)